

転勤族(自衛隊員)ヒアリング



転勤を伴う海上自衛隊員の中で家族帯同の方と単身赴任の方を対象に、現在の暮らしの満足度や課題、2040年の舞鶴に望む姿についてヒアリングを実施。

日 時:2026年1月20日(火)

場 所:舞鶴地方総監部

参加者:6名(家族帯同者3名、単身赴任者3名)



転勤族(自衛隊員)ヒアリング結果

現状：舞鶴の魅力や暮らしの課題等

1. **交通アクセスの課題**：都市部への移動にかかる時間とコスト(特急料金)の高さ、市内移動における公共交通(タクシー・バス)の不足と自家用車必須の環境が課題。特に、単身赴任者は車を持ってきておらず、不便。
2. **商業施設と「居場所」の不足**：単身赴任者は、休日に一人でゆっくり過ごせる場所(ネットカフェ、Wi-Fi・ドリンクバー完備のファミレス等)の欠如を切実に感じている。家族帯同者は、買い回りが一箇所で済む大型商業施設(イオンモール等)や、安心感のあるチェーン店の不足を感じている。
3. **生活ルールのストレス**：他都市と比較して、ゴミ分別の煩雑さや回収頻度の少なさ(特に不燃ごみ)が、生活上の大きなストレス。直接搬入は、車の問題や手数料があるため利用していない。
4. **娯楽と自然の評価**：キャンプ場の安さや魚介類の美味しさは魅力だが、近隣で地魚が手に入りにくい点や「観光地価格」への不満がある。映画館等の娯楽施設が小規模で、子供や若者が遊ぶ場所が少ない。
5. **地域コミュニティとの距離**：転勤族であるため地域との深い関わりを求めない層もいるが、関心があっても接点の入口や情報の入手方法がわからず参加できないケースも多い。
6. **住居の選択**：家を建てる場所として、妻の実家の近くを選択するケースが多い。また、子どもが小さい頃からお世話になっているかかりつけ医のいるまちで家を建てるケースも見られた。

未来：ずっと住み続けたいくなるまちへ

1. **「居場所」と利便性の確保**：佐世保や横須賀のように、基地と街が近く、徒歩圏内で生活や余暇が完結するまちづくりを希望。図書館や公共施設にWi-Fiやカフェ機能を整備し、単身者等が長時間滞在できる「居場所」の創出を期待。
2. **定住へのインセンティブ**：退官後の定住先が決まっていない方の定住を促すには、佐世保市のような任期制自衛官移住定住支援助成金など有効。また、将来子供や親族が帰省しやすい交通アクセスの改善も定住判断の鍵。
3. **教育環境と選択肢の拡充**：子供が成長した際の高校教育の選択肢の少なさ(京都市内等との比較)への懸念がある。所得連動だけでなく、必要な世帯への公平な教育費支援が必要。
4. **情報発信と自然な交流**：転入時に地域活動やサークルの情報が届く仕組み(プッシュ型通知やチラシ配布)が必要。防災訓練のような形式的なものではなく、スポーツやイベント準備などを通じた、市民と隊員が自然に交流できる機会の創出を期待。制服での登下校見守り活動など、自衛隊員を身近に感じてもらう機会も良い。
5. **大型商業施設と滞在空間の創出**：イオンモールやゆめタウンのような、一箇所で買い物完備し、フードコート等で長時間滞在できる大型施設の誘致を強く希望。
6. **公園のアップデート**：アスレチック遊具など、高学年でも楽しめる公園の整備を希望。

転勤族(自衛隊員)と転勤族の配偶者ヒアリング比較

	転勤族(自衛隊員)	転勤族の配偶者
第一印象	「何もない」「都市部から遠い」といった 物理的な不便 が先行。	「場所を調べて絶望した」など、未知の土地への 心理的不安 が強い。
舞鶴の魅力	趣味と実益 : 安いキャンプ場、美味しい魚。職場と住居が近いこと。	人のあたたかさ : 知らない人が声をかけてくれる、荷物を運んでくれる優しさ。
子育て・教育環境	ハード面への要望 : もっと大きい遊具のある公園。 教育環境への不安 : 高校教育の選択肢の少なさを懸念。公平な教育費支援も希望。	ソフト面への評価 : 子育てひろば、「あそびあむ」などの施設が充実し、スタッフが親切。 教育環境への不安 : 高校教育の選択肢の少なさを懸念。市外への通学費補助など、舞鶴に住みながら学べる仕組みに期待。
生活の不満	都市機能の欠如 : ネットカフェなど一人になれる時間の場所がない。ゴミの分別が複雑で回収が少ない。	専門インフラの不足 : 小児科が少なく待ち時間が長い。夜間や急な産気づいた時のタクシー不安。
買い物・娯楽	チェーン店の安心感 : 丸亀製麺や焼肉きんぐが欲しい。一箇所でも長時間滞在できる大型モールを希望。	利便性の向上 : ショッピングモールやコストコなど、大人も中高生、子どもも楽しめる、飽きのこない遊び場や買い物の場の創出を希望。
地域との関わり	情報の欠如 : 自治会や地域の情報が届かない。地域との関わりを求めない層もいるが、市民と隊員が自然に交流できる機会の創出を期待。	つながりの希求 : 知り合いがいない不安を「てんつまCAFE」等の交流の場で解消につながっており、交流の場を希望。
定住への考え	否定的(現実路線) : 退職後の仕事がない。交通の便が悪く、老後が不安。	条件付きで肯定的 : 実家に近い、または子育てや仕事の条件が揃えば住み続けたい。